

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104134
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ滝の神
訪問調査日	平成 20 年 11 月 29 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成 20年 12月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	4670104134
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ滝の神
所在地	鹿児島市吉野町1044番地9 (電話) 099 - 243 - 2268

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年11月29日	評価確定日	平成21年1月27日

【情報提供票より】平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	11 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 14 .

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000円(水道光熱費)	
敷金	有() 円) 〇無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院	西歯科医院
---------	--------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道10号線より吉野方面の坂道を上ると道路沿いにグループホーム滝の神が見える。道路向かいの山は春は若葉、秋は紅葉と見事な眺めで季節の移ろいが楽しめる。近くに野菜や花の苗が豊富なホームセンターがあり、職員と入居者はショッピングしたり、作物を育てたり自然とのふれあいを楽しんでいる。母体は医療法人でホットラインが設置され緊急時や状態の変化時は何時でも適切な指示が受けられる。このホームは口腔ケアに力を入れており「いつまでも、おいしく、楽しく、食べたい物が食べられるように」と理念を掲げ食前の口腔体操、食後の口腔ケア、歯科医との連携を図るなど日々取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>全年度の改善課題は 家族への報告で金銭出納帳の収支をわかりやすく整理することであり、出納帳と領収綴りを別にし出納帳も1カ月づつ記帳しコピーして報告し改善されている。 職員を育てる取り組みについて職員の経験や能力、力量を考慮した上で、ホームとしての方向性を打ち出した研修計画を立て、職員が確かな目的意識を持って受講できるような体制づくりに期待したい。これについての努力も見られるが今後も引き続き課題として残る。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今年度の自己評価の取り組みは評価の意義を理解され、各ユニットに於いて一人ひとりに書き込みをもらいミーティングでわかりにくい項目や改善点について話し合いながら、各ユニットの計画作成担当者が作成している。</p>
	<p>重点項目</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は平成20年2月7月9月と不定期に開催されている。この会に地域住民代表1名が1回出席したのみで家族と職員の会議になっている。運営推進会議の目的は地域密着型サービス事業所の活動を明示し、幅広い立場のメンバーから率直な意見をもらいサービスの質の向上に活かすことであり、メンバーに意義や役割を理解していただけるよう積極的な呼びかけの姿勢を示され会議に参加を促すと共に定期的な開催ができるよう努めて頂きたい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関には意見箱の設置や相談苦情窓口が明示されている。又家族会の開催も行っているが、意見は無く、ホームでは今年度無記名でアンケート調査を試みた。いろいろな意見が出て、管理者は既に運営に反映させたものや今後に残る課題もあり、努力されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会長より地域の年間行事予定表をもらい、六月灯、町内運動会見物、廃品回収への参加をしている。ホームの誕生会には町内の方に踊りやコーラスの依頼をしたり、月に1回お話し相手の訪問も受け入れている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	医療法人春風会の8つのグループホームの理念であり、理念の中に事業所と地域の関係性を重視し利用者が地域の中で安心して暮らしていけるよう支えていくことが盛り込まれている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に職員全員で理念を唱和し、事務所、ホール、カウンターに理念を掲げ常にケアの方向性の意識づけがなされている。特に理念に掲げられている口腔ケアについての職員の意識は強く実践に向けて日々取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会長より地域の年間行事予定表をもらい、六月灯、町内運動会、廃品回収への参加をしている。ホームの誕生会には町内の方に踊りやコーラスの依頼をしたり、月に1回利用者との話し相手の訪問も受け入れている。		ホームとしてできる行事(例えばバザー、救命講習、茶話会、口腔ケア・高齢者の食事についての講演会、クリスマス会、七夕飾り、学生の職場体験など)を考案され地域の人との交流をより深めて頂くことを望みます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価や自己評価の実施については評価の意義を理解され、自己評価の実施は各ユニットに於いて項目の用紙を職員一人ひとりに配り書き込みをしてもらい、ミーティングでわかりにくい項目や改善点について話し合いながら各ユニットの計画作成担当者が作成し、職員は出来上がったものを確認している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は平成20年に3回開催されている。メンバーの欠席が多く家族と職員の会議になっている。		運営推進会議の目的は、地域密着型サービス事業所の活動を明示し幅広い立場のメンバーから率直な意見をもらいサービスの向上に活かすことであり、メンバーに意義や役割を理解していただけるよう積極的な呼びかけの姿勢を示され、会議に参加していただくと共に定期的な開催ができるよう努めていただきたい。

鹿児島県 グループホームはるかぜ滝の神

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎年、介護相談員の依頼をし、活用されている。市の担当職員には、ホームの実情を報告し相談をするなど連携をとりながらサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族には毎月の便りを発行し活動状況を報告している。(たよりの裏面にそれぞれの金銭出納帳のコピーをしている。)面会時には近況報告を行い、緊急な用はその都度電話で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱の設置や相談・苦情窓口が明示されている。又家族会の開催も行っているが意見が無く、ホームでは今年8月無記名でアンケート調査を試み意見を求める努力をされている。いろいろな意見が出て、管理者は職員と話し合い既に運営に反映させたものもあり今後に残る課題もある。		画期的な家族の意見を求める取り組みは今後も継続されることを望みます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は管理者、計画作成担当者の異動や職員の異動もあり、利用者への影響を最小限に抑えるよう馴染みのスタッフで新人スタッフのフォローをしている。新管理者はスタッフの働きやすい環境作りで職員の固定化を図り、利用者やご家族の信頼回復に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内をしスタッフに参加の呼びかけをしている。研修参加者はホームで研修報告や発表を行っている。事業所では毎月職員の学びたい項目を確認しながら勉強会を開催している。		来年度に向けて職員各自の経験、能力、立場に応じた段階的・計画的な学びの機会を確保できるよう年間研修計画の取り組みを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームの管理者は、毎月集まり情報交換を行っている。鹿児島県グループホーム連絡協議会に加入し、8月より吉野地区グループホーム連絡協議会が発足し加入しているが管理者の参加にとどまっている。		同業者との交流が管理者については行われているが、職員の交流の機会が少なく、今後は職員においても同業者との勉強会や相互訪問の活動を通じサービスの向上をさせる取り組みをしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にご家族及び入居者の方に半日あるいは1日見学してもらい、食事の様子、職員や他の入居者の雰囲気、居室の見学をしてもらい納得して入居している。入院中の入居者についても必ず見学していただき、管理者は顔馴染みになるよう病院にも会いに行くなど安心してもらえるよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は日常の生活の中で入居者の言葉や表情行動から思いを把握し共に分かち合い支える関係作りを築いている。ぬかごの調理、苗の間引き、野菜の収穫時期、洗濯物の干し方、七夕の風習を覚えてもらう場面づくりをし感謝の言葉かけをしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人やご家族から思いや意向を聞き、更に職員は日常の会話や態度、表情などで確認をしたことを日々の記録に書き込み管理者がそれを読み、把握したことをまとめて職員に伝え共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>各ユニットごとにご家族、入居者、職員で日常生活での気づきや意見を会議の場に出し合い、本人がより良く暮らすための介護計画が作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>各ユニットで毎月ケア会議を行い、3カ月に1回モニタリングをして現状に即したものになっているか見直しを行っている。状態に変化があった場合は新たに介護計画の作成をしている。</p>		

鹿児島県 グループホームはるかぜ滝の神

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	前年度の医療体制加算は今年度はないが協力病院で毎週月曜日には定期受診をしている。急変の場合はホットラインで直ぐ指示が受けられる。専門医への通院介助を行い、本人の要望に応じて普段行けない場所への支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・本人の希望するかかりつけ医との連携を図り適切な医療が受けられるよう支援している。通院介助はご家族にお願いしているが、困難な場合は家族に代わりスタッフが同行している。専門医や協力病院の受診は職員が通院介助している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に医療行為が必要になった時と口から栄養が取れなくなった場合は退去の旨を伝えている。状態の変化があった場合はかかりつけ医、看護師、家族と話し合いご家族の意向を随時確認し、終末期ケアを希望される場合は看取りの指針に基づいて検討していく。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員がミーティングの際に利用者の誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや排泄・入浴介助の対応など意識の向上に取り組んでいる。記録や書類の扱い方、個人情報保護法など勉強会や研修会で学んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間を基準に大まかな生活の流れはあるが本人の生活リズムを尊重し、朝ゆっくり寝たい、昼寝がしたい、湯舟に浸かりたい、シャワーが好き、畑がしたい、編み物がしたい、その日の洋服を一緒に選んで欲しい、買物に行きたいなど臨機応変に対応しその人らしい暮らしの支援をしている。		

鹿児島県 グループホームはるかぜ滝の神

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が一緒に育てた野菜を使用したり、旬の野菜や季節の料理を心掛け、好みを聞きながら献立を作成し、一緒に料理を作り楽しみながら食事になるよう工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴できる。一人週3回の入浴予定にしているが体調や希望で柔軟に対応されている。ハーブやアロマなど好みの入浴剤を使ったり温度や入浴時間など本人の希望にそって楽しい入浴になるよう支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントによる生活歴や職歴などを参考にその人ができそうなことや張り合いとなりそうな役割を見つけたり、得意なことから楽しみを見出し提案したり、それぞれの人に合った場面づくりを心がけ支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や庭の畑に出て外気浴を取り入れている。希望にそって外出の際は近くの公園やドライブに出かけるなど利用者本位の外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は外から入るのは自由であるが、中からはドアの上位部分にタッチしないと開かない。このホームは位置的に交通量が多く一人での外出は危険性がある。職員は常に外へ出かけた人に注意を払い、必ず付き添って出掛け鍵をかける弊害がないように努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立ち会いの下、避難訓練・消火訓練を行っている。緊急連絡網、避難経路、避難場所、災害時の対応手順マニュアルなど安全対策資料が整備し、備蓄品についても缶詰、カップ麺、水、消毒液など確保されている。職員は他棟の入居者の把握をし、夜勤帯の災害時に備えている。		

鹿児島県 グループホームはるかぜ滝の神

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録され状況に変化がないかチェックされている。栄養バランスについては法人所属の管理栄養士の助言を受け献立には留意している。食事形態や介助方法、味付けの工夫をし一人ひとりの状態に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝夕の採光はカーテンの開閉で調節し、ホールには季節に合わせて飾り付けをし(現時点ではサンタクロースやクリスマスツリー、畑で採れた野菜)交通量の多い道路沿いは騒音が聞こえないように窓を閉めたり、ホールの一角には畳が敷かれテレビが設置してあり畳やソファそれぞれ好きな場所でテレビ視聴ができるなど居心地よく過ごせる工夫がしてある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台、ベッド、床頭台が備え付けてあり職員と本人が話し合いながら使いやすい位置に配置し、家から三段ボックス、テレビ、時計、パイプハンガー、観葉植物、テーブル、位牌を持ち込みその人らしい暮らしの様子がうかがえる部屋づくりになっている。		